

ちいさな証

神様の不思議な日々
オヤル千夏(ちか)

アラブ首長国連邦 ドバイ在住



1年前には、まさかこちらで小さな証をさせて頂く事になるうとは全く想像もしていませんでした。イエス様に、JEGの皆様に出会えた事と全てにハレルヤと心から感謝を申し上げます。

私は、収容されていたkreuzlingenの難民キャンプからスイス人の友人に連れられ2020年の2月にスイスJEGへ導かれました。その日は特別集会で、ロンドンJCFの服部牧師が「天の神の大きな喜び」をテーマにルカ15章の「放蕩息子」の有名な箇所から解き明かしをされました。服部牧師は今回、二人の息子を持つ

た父親にスポットを当てられ、パリサイ人になぞらえた長男に深い同情を示され、私達の父である神の深い愛と赦しを改めて学ぶ幸いな時となりました。

その後の愛餐会では久しぶりに日本料理を楽しみました。そこである姉妹に「トルコ人と結婚したことは良かったかどうか」と言われ、私はショックで大泣きをしたのでした。その後、別の姉妹がメールを交換してくれ、再び私に会いに来てくれ「シューミン先生の癒しと解放の祈り」を体験できました。

その時心の奥に、しまいこんでいた辛い過去を探ってみると私には怒りや妬み憎みが潜んでおり、あろうことか自分を呪っていたことに気付いたのです。これらの思いを放棄し、自分を傷付けた人々を赦し祝福し、イエス様にお渡ししていくという長い時間を必要とする作業でした。それを姉妹は忍耐強くお付き合い下さり、私の霊は以前とは違った静けさを経験したのです。この癒しと解放の祈りをこのタイミングで行えたことは本当に感謝でした。でなければ私は滅んでいたことでしょう。

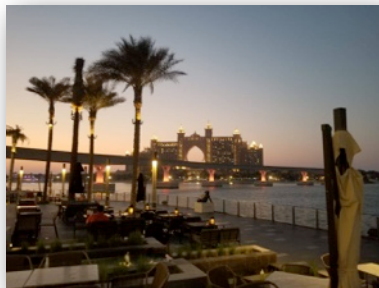
母親が放った言葉によってその息子さんが鬱になり、何十年も薬を飲んでいたのに癒しの祈りで霊が解放され、今や癒しの祈りを行う者とされ活躍していることを耳にしました。そうやって私も気づかない内に、呪いの言葉達を今回だけでなく昔から受けていたことを知りました。

私の夫は身請け引き受け人の妻である私の不在により、既にトルコに強制送還になっており、東京に帰る家も無い状態で、私はスイス政府から強制送還の知らせを受けました。しかし難民支援団体も、友人も、教会の姉妹達も、トルコへ行くことに反対しました。そんな中トルコでは徴兵制度も無くなり、無事に夫は9年振りに家族との再会を果たせた事を夫から知らされました。その言葉に私は安心した反面、私の役目は終わったと空虚感が心を満たしました。

そして、これからこの呪われた結婚をどう終わらせるか、一人で生きていくことの決断を迫られたものの、答えることが出来ませんでした。将来のイメージが全く掴めず、私は自分に失望し、本当に疲れ果ててしまい、自死の思いが入ってきていました。そんな状態の中、飛行機はスイスを出発し、3月の日本はコロナ騒ぎで、教会だけでなく、多分きつと何処でも、外国から戻った人には厳しかったと思います。私の友人達との再会を喜んだのも束の間、私の不在中に夫が日本に残して行った様々な問題を解決し、責任を果たすよう言い渡された私は、過呼吸になり倒れてしまいました。

もう恐ろしくて一歩も歩くことが出来ない私にイエス様の十字架のシーンが表れ、私は何度も謝り涙で顔が腫れあがりました。そして私の噂を聞いた宣教師のHさんが訪ねて来られ、聖書の学びが始まりました。Hさんはイザヤ書52-53章から受け取られたメッセージを私に分かち合ってくださいました。

「私はあなたのただ中にいる主、私だけを見上げなさい。私があなたに語る真実、真理の言葉を目印としてたたく立って前進しなさい。私だけがあなたを愛し、あなたのために命をかけてゆくからだ。私が喜び十字架刑で耐えたのは、私の命があなたにあり、私の命の喜びが、あなたの中に見えたからだ。私の命をあふれだし輝きなさい。私の命が、あなたから溢れ流れるのを見なさい。そうやって、あなたの隣人を愛しなさい。」



ドバイ：アトランティスバーム前

私は雷に打たれたようになり激しく泣きました。イエス様の、命の喜びが私の中に見えたとおっしゃって下さるそのメッセージに私の霊は目覚め、そうやって夫を愛しなさいと…。イエス様の夫への愛がわかったのです。

「神が私達に与えてくださったのは、恐れや不安ではなく力と愛と正気の霊です」(2テモテ1:7)

そして、はからずして、呪いを受けてしまった出来事を箱に入れ封印し、イエス様にお渡しし霊の解放を得ました。その後、夫は彼の母親にイスラム教を捨ててキリスト者になると言ったと告白され、腰が抜けるほど驚きました。トルコのロックダウンが解かれた後、夫との再会が叶いました。

振り返れば私は6歳の時にイエス様に会い、受洗したのは30歳の時でした。呑気な私の信仰をイエス様は奮い立たせて下さいました。現在、夫と二人の会社をドバイに立ち上げることが出来、神様の不思議な日々を経験しています。どうぞ夫の洗礼までの導きをお祈り下さるよう皆様をお願い致します。

Zoom礼拝、祈り会に参加でき皆さんに繋がれた幸いを心から感謝し、JEGの働きが益々祝福され、笑顔が溢れる教会でありますようお祈りします。

